

## 愛媛県松山市で捕獲されたアライグマ *Procyon lotor*

金城芳典・谷地森秀二

The raccoon *Procyon lotor* captured in Ehime Prefecture Matsuyama City

KANESHIRO Yoshinori and YACHIMORI Syuji

**Key words:** Raccoon, *Procyon lotor*, Ehime Prefecture, The first record, Body measurement

### はじめに

アライグマ *Procyon lotor* は1962年に愛知県犬山市において、日本で初めて野外で確認された(日本生態学会, 2003)。1979年には北海道恵庭市で確認された(池田, 1999)。これ以降、神奈川県(中村, 1991)、千葉県(落合ほか, 2002)、鳥取県(川上, 2003)など各県から報告が相次ぎ、2006年6月時点で、46都道府県に本種の野外における確認記録がある(池田, 2006)。

愛媛県は日本で最後まで本種の野外における確認記録がなかった県であったが、2006年11月、愛媛県松山市においてアライグマが捕獲された。筆者らは、この捕獲個体を解析したので報告する。

### 捕獲の経緯

本個体(図1)は、住民から通報を受けた愛媛県動物愛護センター職員が、2006年11月14日に網を用いて捕獲した。捕獲場所は愛媛県松山市余戸東4丁目の民家の庭先(北緯33°48'59", 東経132°44'5")である(図2)。愛媛県動物愛護センターで飼育されていたが、飼い主が名乗り出てこなかったため2006年11月20日に安楽殺処分された。

愛媛県動物愛護センター(私信)によると、本



図1. 捕獲されたアライグマ。

個体のほかにもう1頭目撃されており、2頭で連れ立って行動していたようだとのことである。捕獲されなかった個体は、これ以降、確認されていない。

### 方法

体各部の観察および計測、体重の測定、試料の摘出をおこなった。計測部位は、岸本ほか(1998)に従った。長さはメジャー(1.5m)およびスチール製定規(1mおよび30cm)を用いて1mm単位まで計測した。体重は台秤(30kg)を用いて10g単

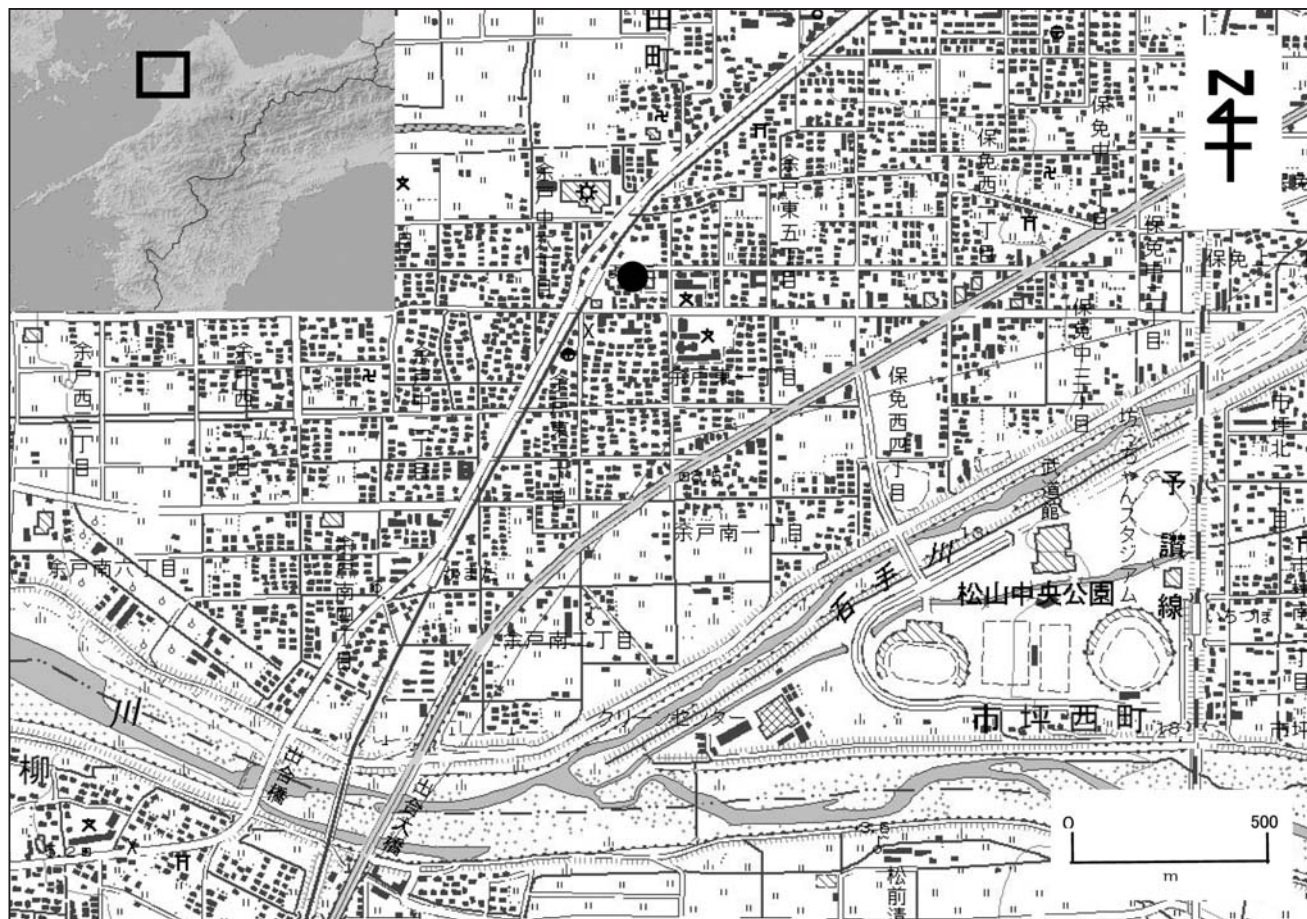


図2．捕獲場所

●：捕獲地点．(国土地理院発行の2万5千分1地形図(郡中)をもとに作図)．

肌まで計量した．性別は外部生殖器の観察により判別した．齢区分の判別は，外部計測値，体重および歯の萌出・磨耗状態より判断した．

これらの作業を行ったのち解剖し，内部寄生虫検査のために消化管を摘出した．寄生虫検査は酪農学園大学獣医研究科獣医寄生虫学教室の的場洋平氏に依頼した．本個体は愛媛県総合科学博物館で標本化の予定である．

### 結果と考察

結果を表1に示す．頭胴長は640mmであった．これは和歌山県田辺市(鈴木，2005)で捕獲されたオス1歳以上の平均値と同様である．歯は，すべて永久歯に置換しており，切歯は磨耗していた．また，左側犬歯が欠損していた(図3)．これらにより成獣と判断された．体重は11.7kgであった．アライグマの体重は通常4～10kgであるため(池田，1996)，本個体の栄養状態はかなり良いと思われる．生殖器は右睪丸が欠損していた．寄生虫

表1．分析結果

|          |        |
|----------|--------|
| 性別       | オス     |
| 成長段階     | 成獣     |
| 体重(g)    | 11,700 |
| 全長(以下mm) | 850    |
| 頭胴長      | 640    |
| 尾長       | 210    |
| 肩高ツメ含む   | 370    |
| 肩高ツメ含まず  | 360    |
| 前肢長ツメ含む  | 215    |
| 前肢長ツメ含まず | 205    |
| 後肢長ツメ含む  | 125    |
| 後肢長ツメ含まず | 115    |
| 前掌長ツメ含む  | 75     |
| 前掌長ツメ含まず | 65     |
| 後掌長ツメ含む  | 125    |
| 後掌長ツメ含まず | 115    |
| 掌底球長     | 47     |
| 掌底球幅     | 35     |
| 足底球長     | 98     |
| 足底球幅     | 38     |
| 首囲       | 280    |
| 胸囲       | 483    |
| 腹囲       | 550    |
| 腰囲       | 600    |
| 耳介長外側    | 55     |
| 耳介長内側    | 62     |
| 耳介幅      | 40     |





図3．歯の状況．

検査の結果，本個体よりアライグマ回虫 *Baylisascaris procyonis* は検出されなかった（的場，私信）．

本個体の侵入は，捕獲場所が市街地であり，周辺にアライグマを飼育している施設がないことから，個人が飼育していた個体の逃亡もしくは遺棄の可能性が高い．アライグマは市街地も好んで利用するため，外部から侵入した可能性もあるが，松山市近郊における野外での確認記録がないため（金城・谷地森，2007），この可能性は低いと考える．2頭で目撃されていることから，複数個体が同時に逃亡もしくは遺棄されたか，あるいは最悪の場合にはすでに野外での自然繁殖が進行している可能性も否定できない．捕獲されていない個体の早急な捕獲が望まれる．

2005年6月1日，環境省は特定外来生物による生態系等による被害の防止に係る法律を施行した．アライグマは特定外来生物に指定され，飼育の際には環境省から飼育許可を得ることが義務づけられている．しかし，環境省（私信）によると，愛媛県から個人の飼育許可申請は1件も出されていない．愛媛県におけるアライグマの無許可飼育の有無は不明だが，今後もアライグマの逃亡もしくは遺棄あるいは隣接県からの侵入が起これば，野外に定着し，様々な問題を起こす恐れがある．実際，北海道（池田，1999）や千葉県（落合ほか，2002），神奈川県（田畑ほか，2006）などでは，個人が飼育していた個体が逃亡もしくは遺棄されて野外に定着したと考えられており，また，これらの県では農業被害や生活被害などの問題が起きている．そうならないために，愛媛県における無許可飼育の実態を把握し，指導をして

いくとともに，アライグマを含めた外来生物の問題について県民に広く普及啓発をしていく必要がある．

#### 謝 辞

愛媛県動物愛護センターには，アライグマ捕獲の連絡をいただき，本個体をご提供いただいた．ここに心からお礼申し上げます．

#### 引用文献

- 池田 透．1996．アライグマ．（日高敏隆，監修：日本動物大百科第2巻 哺乳類Ⅱ）pp. 139-140．平凡社，東京．
- 池田 透．1999．北海道における移入アライグマ問題の経過と課題．北海道大学文学部紀要，47：149-175．
- 池田 透．2006．アライグマ対策の課題．哺乳類科学，46：95-97．
- 金城芳典・谷地森秀二．2007．四国における外来種アライグマ *Procyon lotor* の現状．四国自然史科学研究，（4）：1-9
- 川上 靖．2003．鳥取県におけるアライグマの記録と外来種をめぐる諸問題．郷土と博物館，48：13-19．
- 岸本真弓・山崎晃司・栗栖宣博．1998．菅生沼周辺で学術捕獲されたタヌキとハクビシンの体計測および生理学的所見．茨城県自然博物館研究報告，（1）：97-103．
- 中村一恵．1991．神奈川県におけるアライグマの野生化．神奈川自然誌資料，12：17-19．
- 日本生態学会（編）．2003．外来種ハンドブック．地人書館．東京，390pp．
- 落合啓二・石井睦弘・布留川毅．2002．千葉県におけるアライグマの移入・定着．千葉中央博自然誌研究報告，7：21-27．
- 鈴木和男．2005．捕獲個体から見えるアライグマの生物学．（田辺鳥獣対策協議会：田辺市におけるアライグマ調査報告書）pp.15-30．田辺鳥獣対策協議会，和歌山．
- 田畑真悠・河内紀浩・村田浩一．2006．神奈川県西部域における外来種アライグマの分布—2004年—．神奈川県自然誌資料，27：21-26．（原稿受理 2007年3月31日）